

クラス番号	631	担当教員名	永岡 正己
テーマ	地域福祉実践の歴史と思想		
著書・論文 研究課題等	【著書】テーマに関する共・編著に『地域福祉の源流と展開』中央法規出版、1993、『自治型地域福祉の展開』法律文化社、1993、『戦後社会福祉の総括と21世紀への展望Ⅱ』ドメス出版、2001、『日本社会福祉の歴史・付史料』ミネルヴァ書房、2003、『社会福祉政策理論の検証と展望』中央法規出版、2007、『石井十次の残したものー愛染園セツルメントの100年』石井記念愛染園、2010、『社会福祉原論の課題と展望』高菅出版、2013 など。 【研究課題】社会福祉思想史、地域福祉実践史、セツルメント運動史、キリスト教福祉		
ゼミナール概要			
キーワード：社会福祉の歴史と思想、地域福祉施設、セツルメント、ボランティア、当事者活動			
【目的】地域福祉はどのように築かれてきたか、人々はどのように取り組んできたか、その歩みと思想を歴史と現在の中から具体的な事例を通して学び、地域に根ざした社会福祉がどのように発展してきたかを理解する。そして、個人、家族、地域社会をどのように捉えて社会福祉の仕事を行っていけばよいか、専門職として、また市民活動にとって必要な福祉の思想、問題解決への確かな視点や方法を身につける。			
【内容・方法】 ① 域福祉（広い意味で）に関する制度、サービス、施設と地域の実践、運動、思想・理論について、主な文献や資料を中心に、その歴史的展開を理解し、地域福祉とは何か、その意義は何かを明らかにする。また、そのための歴史資料、記念誌、論文、調査報告書等の探し方、読み方、用い方を身につけます。 ② 参加者の関心にもとづき、福祉制度、地域福祉施設（保育園、学童保育、社会館、デイケア、ホームレス支援など多岐にわたります）、社会福祉協議会、民生委員児童委員、児童館、セツルメント運動、当事者団体、ボランティア・NPO、国際福祉活動など、さまざまな事例を取り上げて、いのち、人権、生活、地域の視点がどう深められてきたかを考え、歴史と今日の課題を検討します。また理論と思想、生活史、災害史、民俗や文化、文学の視点からも地域福祉のもつ意義を考え、これからのそれぞれの実践の基礎を確かなものとしします。 ③ 排除、孤立、差別と地域福祉の課題等についても考えたい。また参加者の地元の地域福祉の歴史や本学のサークル（学生セツルメントなど）等の歴史も対象とします。 ④ 以上の活動を通して相互の交流を図りながら、各自テーマを定めて卒業論文を完成させます。			
【授業計画】 3年前期：参加者の関心を話し合い、研究・活動の課題と年間計画を決め、研究課題を明らかにする。また社会福祉・地域福祉の歩みと現状、課題について文献にもとづいて基礎知識を身につけるとともに、図書館や施設・社協などが所蔵している資料の探し方や歴史文献の読み方を理解するとともに、歴史のある施設・団体や先駆的な活動を行っている施設や団体を訪問・見学し、資料調査等を実施する。（テキストは話し合いの上、決定します。） 3年後期：各自の問題意識を深めて、研究文献の検討や資料の収集を行い、順次報告を行うとともに、地域福祉の課題や方法の理解を深め、各地の活動の発展や意義の整理を行う。3年の終わりに中間報告会を実施する。 4年：卒論の作成に取り組む（事例によっては共同で取り組む場合もある）。社会福祉・地域福祉の歴史的課題や展望を考え、各自の論文作成の作業と討議を通して、これからの私たちの仕事に必要な総合的な力も身につける。 ＊相談の上、地域福祉実践の歴史と現状の見学を休み期間に行う予定です。いろいろな研修や大会にも時間があれば参加してほしい。演習を通して就職、進路のこと、また国家試験予定の人はその準備にも一緒に取り組んでほしい。			
担当教員からのメッセージ			
社会福祉は歴史的に築かれてきたものです。政策・制度も民間の施設・活動も歴史の中でさまざまな要因によって生まれ、今日に至っています。歴史が好きな人も、今の問題に関心のある人も、私たちが生きてきた姿、暮らしと地域、福祉の歩みに関心があれば、テーマや方法は自然に深まり、研究の楽しさや意義が実感されると思います。皆さんの出身地にある施設や社会福祉協議会、地域に根ざした活動の歴史も調べて、これからの活動に役立ててください。ゼミは皆さんが共につくる活動なので、主体的・積極的に、お互いを大切に、一人ひとりの個性を生かして、楽しいゼミ活動をと願っています。			